

令和6年度
入学試験問題

第1回

国語

- 1 問題用紙は監督者かんとくしゃの指示があるまでは開いてはいけません。
- 2 開始のチャイムが鳴ったら、最初に問題用紙と解答用紙に受験番号と氏名を記入して下さい。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入して下さい。
- 4 記述で答える問題は、特に指定のない場合、句読点くとうてんや符号ふごうは一字として数えるものとします。
- 5 問題は1ページから16ページまであります。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

森村学園中等部

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

春の田植えで植えられたあと、イネは水田で育てられます。畑で栽培される作物は、水の中で育てられることはありません。「なぜ、イネは、水の中で育てられるのか」という「ふしぎ」が興味深く抱かれます。イネには、水の中で育てられると、主に、四つの「ひみつ」の恩恵があります。

一つ目は、水には、土に比べて温まりにくく、いったん温まると冷めにくいという性質があることです。ですから、水田で育てば、イネは夜も温かさが保たれた中にいられます。暑い地域が原産地と考えられるイネにとって、これは望ましい環境です。

二つ目は、水中で育つイネは、水の不足に悩む必要がないことです。ふつうの土壌に育つ植物たちは、常に水不足に悩んでいます。そのため、私たちは、栽培植物には「水やり」をします。栽培植物に水を与えないでいると、すぐに枯れてしまいます。

しかし、自然の中で、栽培されずに生きている雑草は、「水やり」をされなくても育っています。ですから、「ふつうの土壌に育つ植物たちは、ほんとうに、水の不足に悩んでいるのか」との疑問が生じます。これは、容易に確かめることができます。

雑草が育っている野原などで、日当たりのよい場所を区切り、毎日、一つの区画だけに水やりをします。すると、その区画に育つ雑草は、水をもらえない区画の雑草と比べて、I。自然の中の雑草は、成長するために、水を欲しがっていることがわかります。

三つ目は、水の中には、多くの養分が豊富に含まれていることです。水田には、水が流れ込んできます。その途上で、水には養分が溶け込んでいます。そのため、水田で育つイネは、流れ込んでくる水の十分な養分を吸収することができますのです。

このように、水の中は、イネにとって、たいへん恵まれた環境なのです。水の中で育てば、イネには主に三つもの「ひみつ」の恩恵があります。これで十分かもしれませんが、これだけではありません。水田で栽培するという方法には、四つ目のものすごい「ひみつ」の恩恵が隠されているのです。

「連作」という語があります。これは、同じ場所に、同じ種類の作物を二年以上連続して栽培することです。多くの植物は、連作されることを嫌がります。連作すると、生育は悪く、病気になることが多くなるからです。

連作した場合、うまく収穫できるまでに植物が成長したとしても、収穫量は前年に比べて少なくなります。これらは、「連作障害」といわれる現象です。連作障害の原因として、主に三つが考えられます。

一つ目は、病原菌や害虫によるものです。毎年、同じ場所で同じ作物を栽培していると、その種類の植物に感染する病原菌や害虫がそのあたりに集まってきました。そのため、連作される植物が、病気になるやすくなったり、害虫の被害を受けたりします。

二つ目は、植物の排泄物によるものです。植物たちは、からだの中で不要になった物質を、根から排泄物として土壌に放出していることが

あります。連作すると、それらが土壌に蓄積してきます。すると、植物の成長に害を与えはじめます。

三つ目は、土壌から同じ養分が吸収されるために、特定の養分が少なくなることによるものです。「三大肥料」といわれる窒素、リン酸、カリウムの他に、カルシウム、マグネシウム、鉄、硫黄などが植物の成長には必要です。

これらは、肥料として与えられる場合が多いのです。しかし、これ以外に、モリブデン、マンガン、ホウ素、亜鉛、銅などが、ごく微量ですが、植物の成長に必要です。必要な量はそれぞれの植物によって異なりますが、連作すると、ある特定の養分が不足することが考えられます。これら三つの連作障害の原因は、水田で栽培されることで除去されます。水が流れ込んで出ていくことで、病原菌や排泄物が流し出されたり、養分が補給されたりするからです。水田で育てば、こんなにすごい恩恵があるのですから、他の植物たちも「水の中で育ちたい」と思うと考えられます。

でも、水の中で育つためには、そのための特別のしくみをもたなければなりません。「どのような、しくみなのか」との疑問が生まれます。そのしくみをもつ代表は、レンコンです。レンコンは、泥水の中で育っていますが、呼吸をするために穴をもっています。あの穴に、地上部の葉っぱから空気が送られているのです。

実は、イネもレンコンとまったく同じしくみをもっています。イネの根には、顕微鏡で見なければなりません。レンコンと同じように小さな穴が開いており、隙間があるのです。正確には、イネは根の中に隙間をつくる能力をもっているのです。

というのは、イネは、水田では、その能力を発揮して、根の中に隙間をつくります。しかし、同じイネを水田でなく畑で育てると、その根には、水田で育つイネの根にできるような大きな隙間はつくられません。必要がないからです。イネは、置かれた環境に合わせて、生き方を変える能力をもっているのです。

A、水がいっぱい満ちている水田で育っていると、困ったこともあります。イネは、水を探し求める必要がないので、水を吸うための根を強く張りめぐらせません。そのため、水田で栽培されているイネの根の成長は、貧弱になります。

根には、水が不足すると水を求めて根を張りめぐらせるといって、ハングリー精神^③といえるような性質があります。ですから、田植えのあと、水をいっぱい与えられて、ハングリー精神を刺激されずに育ったイネの根は貧弱なのです。

もしそのままだと、秋に実る、垂れ下がるほどの重い穂を支えることができません。イネは、倒れてしまうでしょう。イネは倒れると、実りも悪く、収穫もしにくくなります。そのようになると、栽培する人たちは困ります。

B、イネの根を強くたくましくするために、イネに試練が課せられます。夏の水田をご覧ください。田んぼに張られていた水は、抜かれています。水田の水が抜かれるだけでなく、田んぼの土壌は乾燥させられています。

ひどい場合には、乾燥した土壌の表面にひび割れがおこっています。イネは水田で育つことがよく知られているので、この様子を見ると、「イネに水もやらずに、ほったらかしにしている」と勘違いをされることもあります。「ひどいことをする」と腹を立てる人がいるかもしれま

せん。

でも、それはとんでもない誤解です。水田の水を抜き、田んぼの土壌を乾燥させるのは、水が不足すると水を求めて根を張りめぐらせるといふ、イネのハングリー精神を刺激しているのです。そうしてこそ、イネは、秋に垂れ下がる重いお米を支えられるほどに根を張り、強いからだになることができます。

土壌の表面のひび割れも、無駄にはなっていないません。ひび割れて土に隙間ができることで、この隙間から、地中の根に酸素が与えられます。それは、根が活発に伸びるのに役に立つのです。

イネの栽培におけるこの過程は、「中干し」とよばれます。この過程を経てこそ、秋に垂れ下がるほどの重いお米を支えるからだができあがるのです。ですから、中干しは、イネの栽培の大切な一つの過程なのです。

私たち日本人には、「田園風景」という言葉から思い浮かぶ景色があります。そこには、山や畑があり、一面の水田が広がっているものが多いでしょう。この風景の中にある水田には、イネがみごとに同じような背丈に成長しています。イネは、そろって成長するように栽培されているのです。

このように栽培されるためには、いろいろな工夫がなされています。「どのような工夫がなされているのだろうか」とか、「成長をそろえることは、何の役に立つのだろうか」との「ふしぎ」が浮かんできます。

近年のイネの栽培では、田植えをせずに田んぼにイネのタネを直接まく「直播き」という方法が多く試みられています。しかし、日本の伝統的な稲作では、苗代で育てた苗を水田に植える「田植え」という方法が行われてきました。

イネの苗の成長をそろえるための最初の工夫は、田植えで植える苗を育てるためのタネを選別することです。その方法は、少し塩を含んだ水にタネを浸すのです。栄養の詰まっていないタネは浮かびます。

発芽したあとの苗がよく育つタネは、栄養を十分に含んでいるので、重いのです。そのため、少し塩を含んだ水に浸すと沈みます。そこで、沈んだタネだけが、苗代で苗を育てるために用いられます。

イネの苗の成長をそろえるための二つ目の工夫は、苗代で育てることです。発芽した芽生えは苗代で育ちますが、ここで芽生えの成長に差が生じることがあります。極端に成長が遅れるような苗は、田植えには使われません。ですから、田植えでは、同じように元気に成長した苗が植えられることになります。

「なぜ、わざわざ田植えをして植えるのか」との疑問がもたれます。これは、確実に決められた本数の苗が田んぼでそろって成長するためです。田植えでは、苗代で育った苗の中から、同じように成長した元気な苗を、たとえば、一箇所(いっかしよ)に三本ずつをセットにして植えられます。そうすれば、確実に三本の苗を育てることができます。

もし苗を植える代わりにタネをまけば、すべてが発芽し、それらの苗が、同じように成長するとは限りません。発芽しないタネがあったり、極端に成長が遅れる苗などが混じっていたりします。田植えをすることによって、そうなることを避けているのです。

でも、もう一つ大切な理由があります。同じように成長した苗を選んで植えることができれば、田植えが終わったあとの水田では、苗の成長がきちんとそろいます。このように成長すれば、すべての株がいつせいに花が咲き、それらはいつせいに受粉し、いつせいにイネが実ります。そうすると、いつせいに株を刈り取ることができます。

稲刈りは、一面の田んぼでいつせいに行われます。もし未熟なものと成熟したものが混じっていると、未熟なものは食べられませんから、いつせいに刈り取ることはできません。稲刈りで、いつせいに成熟した穂を刈り取るためには、イネは成長をそろえることが大切なのです。そのために、田植えが行われているのです。

(田中修『植物のひみつ』より)

問一 ——— ①「四つのひみつ」の恩恵」とありますが、次から四つの恩恵には当てはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 常に水に恵まれていたため、水不足になる心配がないこと。
- イ 外気温の変化の影響を受けにくく、安定した温度を保ちやすいこと。
- ウ 流れ込む水によって、成長に必要な養分が常に補給されること。
- エ 豊富な水のおかげで、病原菌や害虫による被害を受けにくいこと。
- オ 連作障害の原因が除去されることで、連作が可能になること。

問二 I に入る言葉として、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 水不足が解消されます
- イ 成長が確実によくなります
- ウ 成長に大きな違いはないことが分かります
- エ 逆に枯れてしまうことさえあります

問三 ——— ②「イネは、置かれた環境に合わせて、生き方を変える能力をもっている」とありますが、その具体的な内容として適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 植物の多くは水の中では育たないが、イネとレンコンだけは特別な能力を持っているため育つことができる。
- イ イネはレンコンと同様に、水の中でも呼吸できるような特別なしくみを身につけるように改良されてきた。
- ウ 水田で育つイネの根はレンコンと同じ構造を持っているが、畑で育つイネの根はその構造を持っていない。
- エ イネは水の中で育てられると、地上部の葉っぱから根の中の隙間に空気が送られるようになる。
- オ 畑で育つイネは、空気を取り入れる必要がないため、根の中に隙間はつくられない。
- カ イネはレンコンに比べると、それほど空気を必要としないために根の中の隙間が極めて小さい。

問四

- A 〃 C に入る言葉として適当なものを、それぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。
- ア しかし イ というのは ウ つまり エ こうして オ そこで カ すなわち

問五

③「ハングリー精神」といえるような性質について、次の問いに答えなさい。

(1) これは、イネという生物のどのような性質について述べたものですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア か弱い生物が必死に生き延びようとして、思いがけない能力を発揮する性質。
- イ 生物が厳しい環境の中に置かれると、逆に強さやたくましさや身をにつける性質。
- ウ 周囲の環境の変化に合わせて、生物が成長の仕方を自在に変化させる性質。
- エ 単独ではか弱い存在にすぎない生物が、集団になると強い生命力を見せる性質。

(2) 「ハングリー精神」とは、本来英語で「お腹がすいている」という意味を持つハングリー (hungry) に由来する言葉ですが、「ハングリー精神」を示す事例として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 飢饉に相次いで見舞われた江戸時代、農民たちの苦境を見かねた将軍徳川吉宗は、冷害に強い作物の栽培を奨励し、それをきっかけにサツマイモの栽培が東日本でも広まったと言われている。
- イ 野口英世は、貧しい農家に生まれ、幼い頃、やけどで左手にハンディキャップを背負ったが、その苦しい境遇をバネにして人一倍努力を重ね、後に、黄熱病の研究で偉大な業績を残した。

ウ 二〇二二年のサッカーワールドカップで、日本代表の前評判は低く、予選突破は絶望視されていたが、本番では強豪国を相手に

奇跡的な勝利をおさめ、サッカーファンのみならず日本中を熱狂させた。

工 東日本大震災直後の極限状況の中、パニックや暴動が起きることもなく、食料支給時にも整然と順番を守る日本人の行動には、海外のメディアから驚きとともに称賛が寄せられた。

問六

④「夏の水田をご覧ください。田んぼに張られていた水は、抜かれています」とありますが、夏に水田の水が抜かれるのは何のためですか。その目的を四十字以上五十字以内で説明しなさい。

問七

「田植えをせずに田んぼにイネのタネを直接まく『直播き』という方法」、B「苗代で育てた苗を水田に植える『田植え』という方法」とありますが、森村君はこの二つの方法を比較するために、次のような表をノートにまとめてみました。

	A タネを直接まく「直播き」という方法	B 苗を水田に植える「田植え」という方法
手間・労力	手間や労力はそれほどかからない。	手間も労力もかかる。
イネの成長	(ア) する。	すべてのイネが同じようにそろって成長する。
収穫	成熟した稲穂と未熟な稲穂が混在し、いっせいに刈り取ることができない。	(イ) ことができる。

① (ア) に入る語句を、本文中から三十三字で求め、最初と最後の五字をぬき出しなさい。

② (イ) に入る語句を、本文中から十五字で求め、ぬき出しなさい。

問八

「最初の工夫」、b「二つ目の工夫」とありますが、両者に共通するのはどのようなことですか。それを説明した次の文中の()に入る言葉を、十五字以上二十五字以内で自分で考えて答えなさい。

「どちらの工夫も、イネの成長をそろえるために」

() 点で共通している。」

問九

この文章の話の進め方や表現の特徴を説明したものととして、適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 最も言いたいことが最初に提示され、次にそれを裏付けるような具体例が数多く挙げられた後、最後にイネという植物が私たちの暮らしに与えた影響にも触れている。

イ 文章の前半と後半とで対比する内容を書くことで、人間の視点から見たイネという植物の良いところと悪いところを読者にも考えさせ、無理なく結論へと導くように話が進められている。

ウ イネという植物の「ふしぎ」や「ひみつ」について、「二つ目は」「二つ目は」のような項目を立てた表現や、人間にたとえた表現を用いることで、読者が親しみやすく理解できるように話が進められている。

エ イネという植物の「ふしぎ」や「ひみつ」を、イネとは対照的な生態を持つ他の植物と対比させることで解き明かし、専門的な知識をわかりやすい言葉に改めながら話が進められている。

オ イネの成長から収穫に至るまでの過程に沿って話が進められ、イネの「ふしぎ」や「ひみつ」を紹介するとともに、人間がそれを巧みに利用して工夫してきた栽培法をあわせて紹介している。

二 静岡県の三島市で育った「ゆり」は英語教師になることを目指しており、津田梅子が創立した学校に入学するため面接試験に臨んだ。以下はそれに続く文章である。読んで、あとの問いに答えなさい。

三島の英語教師の発音と津田先生のそれはあまりに違った。無理もない。津田梅子先生といえ、六歳にして岩倉使節団と共に女子留学生五人の一人としてアメリカに派遣され、十一年間も西洋人と同じように暮らしていらつした方だ。ほとんど日本語も忘れてしまったというのに帰国後、こちらの文化や風習を努力で取り戻し、再び渡米して、名門プリンマー女子大で学んだという超人的な活力の持ち主である。彼女が日本女性の教育を向上させようと創立した女子英学塾は開校四年ですでに全国にその名が轟いている。卒業すれば必ず英語教師の資格をもらえるという触れ込みで、少しでも異国の文化に胸をときめかせたことのある娘なら、夢見る憧れの学校だ。そんなわけで教師や両親に勧められてやる気まんまんで臨んだ入学試験だったが、面接にはなんの手応えもなく、その日はうなだれて、付き添いの父と一緒に三島に帰った。旧家を継いで一帯の土地を管理する父だけれど、もともとは慶應出で学問の道に進みたがっていた。ゆりの受験には一緒に張切り切っていた分、慰める言葉が見つからないのか、鬱ぎ込む娘を前にオロオロするばかりだった。

絶対に落ちた、と鬱々と過ごしていたが、^① どういうわけか合格通知が届いた。両親は喜んでくれたが、祖母はおめでどうも何もなく、暗い顔でゆりの髪を撫でた。

「あなたはこの髪で女としては大変に苦勞するだろうからね。万が一のために、一人でも生きていけるようにしなければなりませんよ。津田先生の言うことをしっかり聞いて、必ず英語教師のお免状を頂くんですよ」

ゆりの髪は生まれつき細かく波打っている。いつもひつつめにして隠しているので、それを知るのは家族だけだ。油なしには櫛も通らない。髪を梳いてくれる母にも毎日ため息をつかれていたから、ゆりは絶望感もなく、そうか、自分は醜いのか、と受け入れていた。じゃあ、せめて賢い人間にならねばと、きゆうきゆう音が出るほど髪をきつく結わえて、十一人もいる兄弟姉妹の誰にも負けないよう勉強を頑張ってきたのである。

明治三十七（一九〇四）年の九月、家族に見送られて汽車に乗り、女子英学塾にゆりは晴れて入学した。

（中略）

「ミス・ツダは、もともとは武士の娘なの。^② 英語だけじゃなく、礼儀にもとつても厳しいらしいのよ。おしゃれ、遅刻、泣くこと。この三つが本当にお嫌いだって聞くわ。それだけはやっちゃダメ。授業もあの通りぜんぶ英語だし、お怒りのときは教壇をバンバン叩くんですつて。宿題もすごく多いし、抜き打ちの試験もあるのよ。入学した時の人数、卒業までには半分くらいまで減るっていう噂よ」

ひええ、とゆりは黙り込んだ。早くも三島に帰りたくて仕方がない。

「あ、そうだ。一人だけ、西洋人みたいな若い女の先生がいたじゃない？ すごくおしゃれじゃなかった？ ほら、あの背が高い人。ブ

ローチとネックレスつけてた人。あんなおしゃれ、よくミス・ツダが許したわねえ。この九月からの着任だって」
「そういえば、外国人の先生に混じって、そんな若い先生もいた気がする。全校生徒を前にした入学式での津田先生のお話が怖すぎて、他のことまで気が回らなかつたのだ。」

——学問をする女性は、今の日本ではまだまだ異端です。みなさんは、一挙一動、日本中から注目されています。だから、全てにおいて謙虚でつつしみ深く、前に出過ぎないことを心がけてください。勉強する女は傲慢で出たがりだなんて、文句がつけられないように振る舞ってくださいね。皆さんの振る舞い次第で、これからの日本女性たちの生き方が拓けるのですから。

確かにそうだ、と頷きつつも、一方でなんだかやる気が吸い取られていくのを感じていた。英語さえ身につければ、まっすぐな髪でなくても、胸を張って生きていけるとばかり思い込んでいたのだが。でも、津田先生のお姿を見たら、それも呑み込まざるをえなかつた。清楚な風貌で黒髪をきりりとまとめ、ふくよかな身体にきっちり着付けた袴姿、形の良いおでこは光っていて大和撫子そのもの。立ち居振る舞いも隙がなく、英語なまりは残るけれど調子に乗っている風もない。それに、生徒たちもいかにも欠点のなさそうな賢そうな子ばかりだった。同世代だけではなく落ち着いた人妻風の女性も大勢いた。

(中略)

入学して一ヶ月が過ぎた頃である。その夜も、誰もいないのを確かめてから、ゆりは浴室の洗面台の前で髪をほどいた。英語の授業には一向に慣れないし、宿題や予習をこなすのもやつとで、その上、何故か日曜日は礼拝という集まりまである。気を抜くと洗面器に頭を突っ込んでうたた寝してしまいそうなほど疲れていた。

「まあ、なんて可愛らしい御髪なんでしょう！」

大きな声にぎよつとして、振り向くとそこに立っていたのは、よりよってこの姿を一番見られたくない相手だった。あの、入学式の日から生徒たちの間で話題になっていた西洋帰りの河井道先生である。

こんなところを誰かに目撃されたら、巻き毛がバレるよりずっと大変なことになる。ゆりは怖いのと、ドキドキするのとで、身じろぎもできなかつた。先生は面白そうに目を輝かせて、ぐいぐい近づいてくる。

二十七歳の道先生は背が高く、がっしりとした体つきで、ただでさえ、ものすごく目立つ。着任したのはゆりの入学と同時期なのに、すでに全生徒の憧れの的だった。ミス・ツダと正反対に、アメリカ人そのままのような装いや立ち居振る舞いで、最新流行の膨らんだ袖に豊かなスカートを穿きこなし、必ずブローチかネックレスをつけている。

(中略)

「きゃあ、やめて。ご覧にならないでください!! 誰にもおっしゃらないでください!」
半泣きで叫んでも、道先生は首を傾げて、ニコニコ笑っている。

「なぜかしら？ そのままの御髪でとても素敵なのに」

そう言うなり、手を伸ばして、いきなりこちらの髪に触れた。恥ずかしさと緊張で、ゆりは肩をすくめた。

「無理にまっすぐにするのがそもそも、あなたには似合わないですよ。最初に見た時から、おばあさんみたいな髪型で、変だわ、って気になっていましたの。その巻き毛を生かしたスタイルにすればいいじゃありませんか？ アメリカでは最新流行よ。その髪、あなたにぴったりする風に結って差し上げるわ。今から、私の部屋にいらっしやいな。きつと綺麗にして差し上げてよ」

③先生の顔をまじまじと見た。自分なんかに目を留めていたなんて信じられない話だ。最新流行とか、綺麗とか、ゆりにはそぐわない言葉ばかり。何より、こんな時間に先生のお部屋に呼ばれるなんて夢じゃなろうか。取り巻きの目が怖かったが、廊下の電気ランプの灯りを頼りに、どんどん先を行く道先生についていった。

(中略)

「ねえ、どれがお好き？ これなんか、あなたにとっても似合いそうじゃなくて？」

そう言つて、道先生は花の柄がついた水色のリボンを手にした。

「こんな素敵なりボン、私なんか、いただくわけには……」

「あら、いいことはなんでもシエアしなければなりません」

「シエア？」

舌にのせたら、しゅわしゅわ泡になって溶けそうなの言葉を、ゆりは味わった。分け合う、という意味を持つ単語だと思ひ出したのはしばらくしてからである。

「そうです。光はシエアしなければ。光を独り占めしては、社会は暗いままですわ」

(中略)

頭の上でリボンがシュッシュッと擦れる音がした。ハイできた、と手鏡の前に、背中を押し出される。そこには、波打つ髪を半分だけ降ろし、後頭部をふんわりと持ち上げた、西洋人形のような娘が、頬を薔薇色に染めて立っていた。自分を醜いと思つて過ぎしてきた膨大な時間を思うとなんだか悔しい気もするが、すぐに忘れてしまった。ゆりはくるくる回り、自分の姿に見とれながらも、卑屈な言葉が口について出る。

「でも、まっすぐな髪じゃないって知られてしまったら、誰もお嫁さんにもらつてくれなくなるんじゃないですか？」

「私は結婚も恋愛もするつもりはないけれど」

道先生はさらりと口にした。④そんな生き方や考え方があっていいのか、とゆりは目を丸くした。

「男の人の顔色を窺つて、自尊心をなくしてビクビク振る舞うのはよくありませんよ。神様のもとでは、女も男もみんな平等なのだから。」

堂々としていらっしやい」

「え、女性と男性が平等!?」

ゆりは目をパチクリさせた。勉強ができれば、性格が良からうが、女は男に疎まれたらおしまいだと教えこまれて生きてきたのだ。

「そうよ、キリスト教の教えでは、基本的にみんなが平等です。性別も国籍も地位も年齢も関係ないわ。あなたも私も、神様の前では、対等な姉妹なのよ。そもそも神様は女性でも男性でもありません」

へえ、とゆりはつぶやいた。ただ言われるがままにこなしていた日曜日礼拝の時間が、急にとつつきやすいものに感じられた。ほんの少し前までは耶穌と忌み嫌われていた宗教だから、心のどこかで警戒もしていたのだ。

「だからね、先生というより、お姉さんと思ってくれても構わないですよ。ほーら、ご覧なさい。あなた、とても美しいじゃない?」

先生の言う通りだった。姿見の中のゆりは美しい。でも、隣にいる河井先生は、もつともつと素敵だ。なんだか自分と先生が本当の姉妹のように思えて、うっとりした。先生の側にいれば、怖いものなんてこの先何もないような気さえする。廊下のランプがさつきまでよりずっと優しくこちらを照らしていた。

(柚木麻子『らんたん』より)

※ 問題作成の都合上、原文の表記を一部改めたり、文章の一部を省略したりしたところがあります。

(注) *ひつつめ……………髪を後ろにひとつにたばねたヘアスタイル。

*ミス・ツダ……………津田梅子先生のこと。

*耶穌……………イエス・キリスト。転じてキリスト教を指す。

*姿見……………全身を映す大型の鏡。

問一 ———— ①「祖母はおめでとうも何もなく、暗い顔でゆりの髪を撫でた」とありますが、この時の「祖母」の心情を説明したものと

して最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 孫娘が有名校に合格した喜びよりも、容姿に恵まれない孫の将来を案ずる思いの方がまさり、心を痛めている。

イ 娘と共に合格を喜んでいる両親の傍らで、大切な孫が自身の元を離れていくことに対してさびしさを感じている。

ウ 兄弟姉妹の中で最も学力に秀でたゆりを応援してやりたいと思いつつも、女性が学問をすることに賛同できないでいる。

エ 英語教師になれば孫も幸せになれると思うが、入学試験にさえ手こずっていた孫には難しいのではないかと諦めている。

問二 ——— ② 『英語だけじゃなく、礼儀れいぎにもとつても厳きんしいらしい』とありますが、「ミス・ツダ」が生徒たちに礼儀を厳しく指導するのはなぜですか。その理由を説明した次の文の（ ）に当てはまる語句を本文中から十五字で求め、ぬき出して答えなさい。

「ミス・ツダ」が生徒たちに厳しくするのは、将来社会で活躍かつやくする自身の生徒たちの行いや言動が「学問を修めた女性」として人々に印象あつを与え、（ ）を決定あづけると考えているからである。

問三 ——— I 「気が回らなかつた」・II 「とつつきやすい」の本文中の意味として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で選びなさい。

い。

I 「気が回らない」

ア 肝心かんじんなことを見落とす

イ 十分に理解しない

ウ 関心を持たない

エ 細かなところに意識が向かない

II 「とつつきやすい」

ア 分かりやすい

イ 親しみやすい

ウ たやすい

エ 挑戦ちようせんしやすい

問四 ——— ③ 「先生の顔をまじまじと見た」とありますが、この時の「ゆり」の様子を説明したものととして、最も適当なものを次から選

び、記号で答えなさい。

ア 巻き毛を見られてしまい動揺どうよくしたが、あこがれの「道先生」と二人きりである時間にうっとりし、先生の顔に見入っている。

イ 自分が日頃から気にしていたくせ毛を指摘してきされた上に自室に呼ばれて、そこでしかられるのではないかと、先生を疑っている。

ウ あこがれの「道先生」に自分の負い目だったくせ毛を褒められたことに驚おどろき、信じられない気持ちで先生の顔を見つめている。

エ 昔から容姿に自信が持てなかつたが、道先生の手によって自分も美しくなれるのではないかと期待たのを込めて先生を見ている。

問五 ——— ④ 「そんな生き方や考え方があっていいのか、とゆりは目を丸くした」とありますが、「そんな生き方」が指す内容を明らかに

して、この時の「ゆり」の心情を七十字以上八十字以内で説明しなさい。

問六 本文の~~~~~①②の内容や表現を説明したものとして**適当でない**ものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ①「この姿を一番見られたくない相手」という表現からは、生徒には人気だが厳しいと評判の「道先生」に見つかることを最も恐れていた「ゆり」の不安気な気持ちを読みとれる。

イ ②「半泣きで叫んでも、道先生は首を傾げて、ニコニコ笑っている」という表現からは、悲鳴を上げて抵抗する「ゆり」と、ゆりの髪に興味津々の「道先生」の対照的な様子がうかがえる。

ウ ③「舌にのせたら、しゅわしゅわ泡になって溶けそうな」という表現からは、「シェア」という言葉の響きに心地よさを感じ、ひかれていく「ゆり」の様子がイメージされる。

エ ④「ほんの少し前までは耶蘇と忌み嫌われていた宗教」という表現からは、キリスト教がかつての日本では禁じられ、信者たちが弾圧されていたという歴史的背景が読みとれる。

問七 ———— A・B 「廊下のランプ」とありますが、この物語における「ランプ」の役割や効果について説明したものとして最も**適当なもの**を次から選び、記号で答えなさい。

ア 「廊下のランプ」は主人公「ゆり」の好奇心を例えており、他の生徒たち視線を気にしながらも、「道先生」についていく「ゆり」の冒険心を暗示している。

イ 「廊下のランプ」は「ミス・ツダ」に対する「ゆり」の罪悪感を表しており、厳しい「ミス・ツダ」の存在がいつも「ゆり」の意識の内にあることを読者に印象付けている。

ウ 「廊下のランプ」は「ゆり」を導く「道先生」の存在を例えており、「ゆり」にとって「道先生」がその後大きな心の支えになっていくことを暗示している。

エ 「廊下のランプ」はキリスト教を例えており、光を照らし人々を救うキリスト教の教えが将来にわたって「ゆり」に影響を与えることを示唆している。

問八 本文に登場する二人の女性教師について、次の問いに答えなさい。

(1) 次のア～エの写真はこの物語が描かれている時代に活躍した女性たちのものである。このうち、本文に登場した「津田梅子」・「河合道」の写真を本文の内容を手がかりにして選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア



イ



ウ



エ



(2) 次の表は「津田梅子」・「河合道」についてそれぞれまとめたものです。読んで①・②の問いに答えなさい。

人物名	共通点	功績	教育観（生徒への教育方針）	教育者として生徒に伝えていた言葉
津田梅子	海外留学を経験し、日本女性の地位を確立するために、キリスト教の教えの元に、女子教育に力を注いだ。	一九〇〇年 女性に高等教育を授ける学校として女子英学塾を設立	学問をする女性代表として生徒たちには「他人からの評価」や「常識」は常に意識すべきであると指導した。	（ a ） （女子英学塾の開校式で生徒の前で語った言葉）
河合道		女子英学塾を退職後、一九二九年 自宅を開放して校舎とし、恵泉女学園を設立	生徒に対しても （ b ）と教えた。	「汝（あなた）の光を輝かせ」 （河合道が好んで生徒に伝えていた聖書の一句）

① (a) には「津田梅子」が教師として生徒に語っていた言葉が入ります。本文の内容や彼女の教育観を参考にして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「神の前に愛と奉仕の精神をもつことを目的とします。」

イ 「学問を究め、活用し、模範的な国民を育成するのだ。」

ウ 「愛に満ちあふれたすばらしい女子を教育することが大切です。」

エ 「all-round women（完璧な婦人・女性）となるよう心がけねばなりません。」

② 二人には共通点もありますが教育観、特に教育者として生徒に伝えていた「他者からの評価」や「社会常識」についての考え方は対照的です。本文の内容を踏まえたうえで（ b ）に入る言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「他人からの評価」や「常識」にとられるよりもむしろ自分らしさを大切にせよ。

イ 「他人からの評価」や「常識」を尊重しながらも自分の好きなことを究めなさい。

ウ 「他人からの評価」や「常識」よりも大切なのは、愛する夫と一生を添い遂げることだ。

エ 「他人からの評価」や「常識」は時代によって変わるものだから自分の信念を持ちなさい。

三

次の①～⑧の——部のカタカナを漢字になおし、⑨～⑫の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- ① 気象エイセイで観測を行う。
- ② 消化キカンを調べる。
- ③ 大陸をジュウダンする。
- ④ 案の良し悪しをケントウする。
- ⑤ スクリーンに写真をウツす。
- ⑥ 朝と夜ではカンダンの差が大きい。
- ⑦ お月見に団子をソナえる。
- ⑧ ケンポウ記念日を制定する。
- ⑨ 図書館の蔵書を整理する。
- ⑩ 自転車を無造作に停める。
- ⑪ 若干名募集する。
- ⑫ 待てば海路の日和あり。